

News Clip

あ き ひと しょう こう にん
商きない工らす人びと **ふくしま商・工・人**

- P2 ヒストリーインタビュー
- P3 福島の美味しいもの食のフェア in東京
- P4 青年部・女性部だより
- P6 知事を囲む商工会代表者会議
平成二十九年 商工会長研修会
- P8 元気印!!ズームアップ
- P10 Information 商工会だより
- P12 掲示板

株式会社アポロガスの代表取締役社長 篠木雄司さんにお伺いしました。

ヒストリーインタビュー

社員は財産! ユニークな社員教育でAIに負けない人材を育てる
総合エネルギー供給企業 福島市・株式会社アポロガス

2018.3.30
Vol.380



日本でいちばん大切にしたい会社

坂本光司

シリーズ10周年 村上龍氏 絶賛
「限られた会社は、「共に生きる」という社会の本質を象徴している。」

70 万部突破! アポロガス (福島県) 他6社
あ古出版

社員は財産！ユニークな社員教育でAIに負けない 人材を育てる総合エネルギー供給企業

企業紹介

株式会社アポロガスは、経済産業省の「おもてなし経営企業」、中小企業庁の「がんばる中小企業300社」、日刊工業新聞社「優秀経営顕彰・震災復興支援賞」、そしてこの度、「日本でいちばん大切にしたい会社6」で紹介された、LPガスの供給・太陽光発電・水素事業などを行う総合エネルギー供給企業です。

沿革について お聞かせください。

共同経営者の専務の父と私の父を含めた四人の若手経営者が一九七一年に規模の拡大と合理化を目指して小規模LPガス販売店四社を合併・協業し飯坂アポロガス株式会社を設立したのが、当社の始まりです。なお、社名の「アポロ」は無制限の可能性に挑戦する気概を示すため、人類史上初めて月面着陸を成功させたアポロ計画に因んでつけました。一九七四年には、給排水設備等の施工管理を行う「株式会社アレックス」を設立し、一九九二年には、社名を現在の「株式会社アポロガス」に変更しています。また、二〇一〇年には、リフォーム事業部「ほつとりビング」と太陽光発電システムの施工販売事業部「アポロエナジー」の併設店を出しています。さらに二〇二二年には被災者の住宅相談に応じられるよう、「フェーチャーほつとりビング株式会社」を設立しました。今年度からは新事業として、移動式水素ステーションを整備し水素事業を展開する予定です。

御社の強みについて お聞かせください。

当社の強みは「人財」です。当社の入社件は、アインシュタインの言葉の実践者です。アインシュタインの言葉とは、「人は周りの人を幸せにするために生きているんだよ」という有名な言葉です。当社ではこの言葉を実践できる感謝の気持ちを持ち、目配り・気配り・心配りができる思いやりにあふれる心の感性をもった人を採用しています。当社の事業は、ガス事業から発電・水素と多岐にわたっていますが、競合他社との一番の差別化は、サービスを提供する従業員にあると考えています。

七割強の学生から足切り にされる理由について お聞かせください。

当社の社員教育はともユニークなため、「おもてなし経営企業」の受賞理由の一つにもなり、全国放送バラエティー番組でも紹介されました。新入社員研修でも新入社員が入社二週間目から一年間地元のラジオ番組のパーソナリティーを担当します。このラジオ研修では、ゲストの選出や原稿作成、事前打ち合わせ等を自分一人でやり遂げなければいけませんので、「コミュニケーション能力や、タイムマネジメント力、企画力など、ビジネスで必要とする実践力を身につけることができます。当社は本当に入社してもらえない学生だけに内定をだすため、就職説明会では、就職内定者も研修の一環でインターン社員としてテレビCMやラジオ出演することを告知して



います。そのため、「ラジオDJなんてできません。こんなことやられるなら、この会社無理」と敬遠され、七割の学生から足切りされる企業となっています。しかし、その一方で、「ラジオDJなんて経験したことないのでできるかどうかかわらないけど、前向きにチャレンジします」という前向きでプラス思考の強い意志を持った三割弱の学生の中から選抜できるので、当社の考え方に共感してくれる優秀な人材を採用することができます。

震災後の対応について 教えてください。

震災直後、原発事故による影響が懸念され始めましたが、私は全社員に緊急招集をかけ、福島のリフラインを守る決意を示しました。そしてこの思いは全社員とも同じでした。そこで初めて二〇一二年七月、当社は会社の方針を広く地域社会に伝えるため、「元気エネルギー供給宣言」を地元新聞に全面広告で発表しました。この地元新聞は、当社の創業時に記事を書いて応援してくれたこともあり、今こそ四〇年前の恩返しをすべき時だとの強い思いから、全面広告を決定しました。次に取っかかったのは、ガスの二十四時間保安監視システムを無償で利用者に提供して、ガス漏れを監視すると共に、安否確認をメールで知らせるというサービスです。原発事故の影響により、母子が県外に避難してしまい、高齢

者の単身世帯や仕事で日中不在になる男性の単身世帯が増えたため、このサービスは地域社会の安全確保に貢献できたものと考えています。

今後の展望について お聞かせください。

当社は米国の経済学者マイケル・E・ポーターが提唱するCSV（共通価値の創造）の実践を目指しています。従来のCSR（企業の社会的責任）が企業の本業と隔たりのある慈善的な社会貢献活動であるのに対し、CSVは社会的な課題の解決と企業の競争力向上を同時に実現させる取り組みのことです。当社は、ガスや太陽光発電などのエネルギー供給から住宅建設まで、地域社会のリフラインを守ることを本業としていますので、CSVのコンセプトである社会的価値と企業が追求する経済的価値の両立は十分可能であると考えています。ガス小売りの自由化に伴いガス業界は厳しさが増えています。こうした中、当社は地域の皆様幸せをお届けする日本一の元気エネルギー供給企業を目指して地元の皆様の生活を支えていきたいと考えています。



企業概要

企業名 株式会社アポロガス
代表者名 代表取締役社長 篠木 雄司
住所 〒960-0201
福島市飯坂町字八景6-17
TEL 024-542-1122
FAX 024-542-7754
HP http://www.apologas.co.jp/
資本金 2,000万円

『福島的美味いもの 食のフェア in東京』

風評被害に負けず頑張っている事業者を対象に商品開発や生産管理、販路拡大の支援を行い、首都圏での販路開拓や福島県の現状PRを目的とし実施いたしました。銀座、有楽町界隈のアンテナショップへ来店する消費者を対象に有楽町駅前広場にて開催。主に発酵食品を中心に関連商品など来場者に適した商品を販売しました。また、福島円盤餃子の試食品提供や福島県加工食品のPR、フードコミュニケーション資料等を配布して、福島県の現状を首都圏消費者に理解いただくことで風評払拭にも努めました。事前の商工会の伴走支援により各出展者とも店舗の特色を出すことに成功し、持参した商品はすべて完売状態でした。



オープニングセレモニー
主催者あいさつ 齋田会長



オープニングセレモニー
ご来賓祝辞 全国連 乾専務理事



11.10 (金) 11:00-19:00 11.11 (土) 11:00-17:00
JR有楽町駅前広場 <http://www.fukushima-bimi.jp/yurakuchou2017/>

福島
美味

【東北】お漬物 八島食品 / ㈱和和田屋 / 福島りようぜん漬本舗
【関東】㈱大相食品 / ㈱ルバーブの島田農園
【金沢】㈱金子牧場 / ヤマサ商店
【徳島】㈱あぶくま川内 / ㈱昇栄 / みそ漬処 香の蔵

【FOOD STAND】福島円盤餃子の屋台
【アンテナショップ】日本橋ふくしま館

主催：一般社団法人有楽町駅前まちづくり協議会（福島県商工会連合会） 後援：福島県、全国商工会連合会、千代田区



準備万端、オープン間近



平成29年11月10日（金）から11日（土）の2日間、東京都『有楽町駅前広場』において県内事業者の出展により開催。天候にも恵まれ、また有楽町駅前という立地により、多くのお客様に福島県の食材を使った加工食品“美味しいもの”の魅力を感じていただくことができました。

集客数 4万5千人 総売上合計 1,700千円



福島円盤餃子の試食品提供コーナーも大盛況



駅前とあって多くのお客様に福島県の食品をPRすることができました。



店舗の特色を出して販売を行いました。



お客様が途切れることもなく、初日は午後7時まで販売しました。

各ブースとも大盛況で完売続出でした。

福島りようぜん漬本舗	(株)金子牧場
(有)和和田屋	お漬物 八島食品
(株)ルバーブの島田農園	(有)大相食品
(株)あぶくま川内	みそ漬処 香の蔵
ヤマサ商店	日本橋ふくしま館
	ほか

参加された事業者のみなさん
ご協力ありがとうございました。

福島県商工会青年部連合会設立50周年記念式典 地域の担い手として、事業の後継者として、次の50年に向けて より輝かしい未来を目指すことを決意

平成30年1月30日、福島県商工会青年部連合会設立50周年記念式典がいわき市「ホテルハイアonz」において盛大に開催されました。式典には、青年部員176名が出席し、次の50年に向けてより輝かしい未来を目指すことを決意しました。

河治県青連会長が挨拶で、「国の中小・小規模事業者を取り巻く環境改善への姿勢が大きく変わってきており、商工会青年部は変わりゆく時代の変化にいち早く気づき、即応するために一層の研鑽による変革が求められている。本式典を契機に「想・創・奏～ふるさとを想い、人を創り、未来を奏でる 友よ ほんとうの空へ～」の実現に向かって、地域の担い手として、事業の後継者として、商工会並びに女性部との絆を最大限に発揮し、次の50年に向けてより輝かしい未来を目指して、邁進していく」と述べました。



式典会場 ホテルハイアonz



感謝状受賞者謝辞 佐々木英明氏



式辞 河治県青連会長

引き続き、これまで福島県商工会青年部連合会の発展にご尽力をいただいた方々に感謝状が贈呈されました。

また、式典では、常磐興産株式会社・坂本征夫顧問を講師に、「炭鉱から観光へ、そして復興へ“もうだめだ”から“チャンスに”」と題し、スパリゾートハイアonzのこれまでの歴史や成功の分析、そして企業努力等について解説していただくとともに、震災後の復興の取り組みについて記念講演が行われました。炭鉱経営からテーマパーク運営という異業種への転換を決断した当時のトップの考え方や、その後の経営戦略については、内部の人ならではの臨場感ある語りで出席者を引き付け、東日本大震災から「グランドオープン」までの国や報道を巻き込んだ復興への取り組みは、青年部員の事業の業種を問わず、大変参考になったのではないかと思います。

歴代県青連会長を交えての祝賀会では、当時の思い出や苦労話を話しながら50年の歴史を振り返っていました。



祝賀会 鏡開きの様子

感謝状受賞者

福島県商工会青年部連合会	第20代会長	菅本 和雅(浪江町)
	第21代会長	須藤 正樹(西郷村)
	第22代会長	山川 憲彦(桑折町)
	第23代会長	佐々木英明(大玉村)



福島県青連一同



歴代県青連会長

女性部基盤強化事業 (11商工会女性部が手を組んで部員増強運動実施!!) 元気はつらつ!エゴスキューで復興支援事業

幹事：あだたら商工会女性部／東北地区(11単会)

年々減少傾向にある女性部員数は、どの商工会女性部においても頭を悩ます問題の1つであると思います。平成28年度の県内女性部員の減少は、平均部員数を42名と計算すると1年に2から3の女性部が無くなっている計算になります。そこで、東北地区の11商工会女性部は、あだたら商工会女性部が事業幹事となり広域事業として女性部員増強運動を実施しました。まず、未加入者の皆さんに『女性部を知ってもらう』を基本テーマとし3つの情報提供を行い大幅な部員増強に繋がりました。

事業内容は下記の通り

1. 部員増強運動PRチラシの作成

共通のPRチラシを作成し各地区にて事業参加や加入を呼びかけました。(裏面には11商工会女性部長の顔写真や事業等々の女性部情報を入れました。)

2. 交流会(意見交換会)の開催

各部より自慢できる事業の紹介や部員加入を効果的に実施するために工夫していることなど意見交換を行いました。

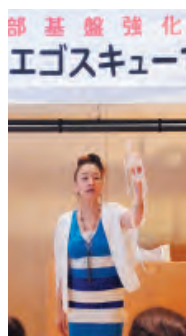
3. 講習会(エゴスキュー)の開催 ←ここがポイント!

幅広い年齢に取り入れやすく、未加入者も女性部員も楽しめる「健康」をテーマにした講習会を開催し(2回開催107名参加)女性部活動に興味を持って頂きました。



***** 事業の途中経過報告 *****

今回、事業を実施した結果、女性部員増強運動強化期間(9月～12月)の加入数が、平成28年度は東北地区全体で3名だったのに対し、平成29年度は12名と大幅アップすることができました。参加者のアンケート結果については、約8割の方から今回の事業が部員増強運動に繋がったという回答を得られ、また、部員未加入者のアンケートからも、「講習会が楽しかった」「様々な活動をしていて感心した」「女性部活動に興味を持った」等々、好印象なアンケート結果も得られ今回の事業効果に満足を得ることができました。これからも、組織の基盤強化のほか女性部目線を大切にしながら様々な事業に積極的に取り組んでいきたいと思えます。



知事を囲む商工会代表者会議

平成二十九年知事を囲む商工会代表者会議が二月二十一日、福島市ウエディングエルティで開催された。

代表者会議では県内商工会長等約九十名が参加し、中小企業・小規模事業者への支援強化などを求める要望書を轡田県連会長が内堀知事に手渡した。

轡田県連会長が挨拶で、「商工会が一丸となって地域復興の原動力となるために事業を積極的に推進したい」と述べた。

引続き、意見表明が行われ、「被災中小企業・小規模事業者に対する支援の強化」等の三項目を渡邊武副会長、佐藤美副会長、高橋健副会長がそれぞれ力強く意見表明し、要望書の手交が行われ、轡田県連会長が内堀知事に手渡した。



要望書手交
轡田会長から内堀県知事へ

このあと、「福島復興へ向けた取組」と題し、内堀知事の講話が行われた。

- 一、被災中小企業・小規模事業者に対する支援の強化
- ① 事業再建等に向けた各種の補助金・支援策の継続・拡充
 - ② 一刻も早い原子力災害の完全収束
 - ③ 風評被害の払拭と県産品の販路開拓支援の充実
 - ④ 原子力損害賠償の完全実施
 - ⑤ 復興支援員等の継続配置と避難地域商工会に対する支援の拡充強化
- 二、中小企業・小規模事業者支援対策の拡充強化
- ① 中小企業・小規模事業者に対する支援策の拡充強化
 - ② 円滑な事業承継や創業・起業に対する支援の強化
 - ③ 人手不足に対する積極的な人材確保支援策の拡充強化
 - ④ 市町村における小規模企業振興

- 三、商工会による経営支援体制の機能強化
- ① 経営支援機能を強化するための小規模事業者経営支援事業費の拡充
 - ② 商工会による小規模企業振興施策の拡充強化
 - ③ 会員サービスの充実強化のための事業施策の拡充強化



知事講話「福島復興へ向けた取組」

平成二十九年 商工会長研修会

平成三十年二月二十一日、知事を囲む代表者会議終了後、同会場の福島市「ウエディングエルティ」で平成二十九年商工会長研修会が開催された。

研修会では、平成二十九年経営支援事例発表福島県大会優勝者のあいづ商工会 渡部理映子経営指導員より、事例発表が行われた。

引続き、事業承継支援について「会社を次世代に引き継ぐために」事業承継における支援機関の役割と会社の事業性の確認のポイント」と題し、ジュピター・コンサルティング(株)代表 大山雅己氏による講演が行われた。



あいづ商工会
渡部理映子経営指導員

ジュピター・コンサルティング(株)
代表 大山雅己氏

経営支援事例発表



肝っ玉母ちゃん達の復興応援大作戦!!
ぴかりん村物語

支援の始まりは、肝っ玉母ちゃんたちとの出会い。平均年齢六十歳、全員が「さすけねーず」という民話劇団の女優さんたち。北会津町にある企業組合「ぴかりん村」は、添加物を加えることなく、素材の風味を大切に農産物を加工する施設。女性ばかりで立ち上げた事業は十四年目を迎え、最近では新商品「りんごチップはまつちやうよね!」が高評価を得ている。



震災後の風評被害で売り上げが減少。そこで、課題を掘り下げて、「強み」に着目し徹底的に活用することを提案。

支援計画と戦略の策定

《支援テーマ》
販路拡大・開拓に向けた支援

《あるべき姿、目指したい姿》
売上高を震災原発事故以前の水準、それ以上まで引き上げる!

具体的な支援として、パンフレットを作成、県内外のイベントに参加、また売れる商品のブラッシュアップのためアンケート調査や専門家の助言指導を実施し、販路開拓事業実行支援を行った。

今後の支援計画

売り上げを震災前に戻し追い越す
そして『ぴかりん村物語』ブランド
確立をめざす



会津

柳津町商工会

絶景の只見川を望む おもてなし料理の宿



河畔の宿 月見亭
代表取締役 武田美恵子氏

〒969-7207
河沼郡柳津町大字小椿字瑞光寺甲2771番地1
TEL 0241-42-2348
FAX 0241-42-3420
URL <http://www.tsukimitei.com/>

■郷土料理と景観、おもてなし

当館は、柳津虚空蔵尊を仰ぎ見る只見川の河畔に建ち、今年で創業40周年を迎える全18室の小さな宿です。料理と景観、おもてなしの3つを特徴に営業しております。会津の郷土料理（こづゆ／ニシンの山椒漬け／車麩甘辛煮など…）や季節によって、きのこや山菜など、旬の食材をふんだんに使った料理を提供しています。長男は管理栄養士の資格を持っており、レッドカレーや赤べこラーメン、手づくりチーズケーキなど、若い感覚で新しい郷土料理の開発に取り組んでいます。洋食や家庭料理など幅広いご要望にお応えしてお客様から好評をいただいています。また、当館からは、柳津町を代表する景観を眺めることができます。特に食事処は、福満虚空蔵尊や只見川の流れを見る絶好のビューポイントで、夜のライトアップや春の桜、秋の紅葉など季節ごとに食事をしながら景観を楽しむことができます。当館のおもてなし



しは、家族経営ならではのふるさとの家庭のような常に明るい雰囲気があります。

■あたたかい宿を目指して

商工会の経営指導員の支援を受けて、これまで2回にわたって持続化補助金を活用しました。1回目は、国道沿いに当館の案内看板を設置しました。郷土料理の写真を前面に出したシックなデザインが特徴で、女性のお客様のご利用が増加しました。また、長期滞在可能をうたったことで、会社関係から問い合わせが相次ぎ、当館の知名度が格段に上がりました。2回目は、調理を担当する長男の要望を受けてスチームコンベクションオーブを導入しました。これによりメニューの幅が広がり、同じ品質の料理を一定量調理することが可能になり、生産性がグンと向上しました。これからも商工会の支援を受けながら、お客様に支持されるあたたかい宿を目指してまいります。



浜通り

葛尾村商工会

大盛りで復興応援!



石井食堂
代表 石井 一夫氏

〒979-1602
福島県双葉郡葛尾村大字落合字西ノ内10
TEL 0240-29-2030
営業時間/商店 8:00~19:00
食堂 11:00~18:30
宴会は予約制
定休日/毎週日曜日

■事業所紹介

先代の石井清夫婦が昭和40年から葛尾村の西ノ内地内で創業し、大盛りの食堂と生鮮食品を取り扱う地域の商店として、住民の方には大変お世話になっておりました。しかし、東日本大震災に伴う原発事故により全村避難となり、一時会津坂下町に避難し、三春町へ仮設住宅が整備されたことに伴い、平成23年11月には仮設店舗で営業再開。

平成29年7月28日には、村内の現在の場所に店舗兼住宅を新築し、家族4人で念願の営業再開を果たしました。7月の再開から現在まで帰村村民や復興工事関連作業員が当店を利用いただいております。夕方、お刺身の盛り合わせ造りが間に合わない程忙しいです。しかしながら、午後6時を過ぎると帰村村民現在250



名余りの静かな村に戻ってしまい寂しい状態です。

■商工会の支援

商工会では、東電への賠償金請求支援はもとより、事業再開支援を実施してきました。仮設住宅が三春町に整備されるとの情報から、避難した平成23年の4月中旬に村へ要望し仮設店舗の支援事業にエントリーし、中小機構と調整を図りながら11月に仮設店舗をオープンすることが出来ました。仮設店舗から市場までの仕入れに全国連の軽トラック無償貸与事業を活用することが出来ました。さらに、平成28年6月12日に村の避難指示が解除されることに合わせ、経済産業省の支援を頂き、平成28年6月から平成29年12月末日まで、店舗のない村内の帰村村民や復興作業員へ弁当や商品を運ぶ『かつらお復興応援宅配サービス事業』を実施してきました。又、村内での事業再開に向けて、復興支援アドバイザー事業を活用して新店舗を設計し、福島県原子力被災事業者事業再開等支援補助金を活用して、新店舗への冷蔵庫や厨房機器の購入に役立てることが出来ました。今後も会員事業業者に寄り添いながら、村の復興に寄与していきたいと思っております。



経営支援レポート

元気印

ズームアップ。

県内4地域の商工会から、地域でがんばっている会員企業をご紹介します。みなさんの経営のヒントになるお話もたくさんいただきました。是非、ご感想を福島県商工会連合会までEメールにてお寄せ下さい。(f-wing@do-fukushima.or.jp)

県北

国見町商工会

結果重視の治療院を目指して



バジル鍼灸整骨院
院長 菅野 光秀氏
〒969-1761
福島県伊達郡国見町藤田字北63
TEL・FAX 024-502-4241
営業時間/8:30~18:30
定休日/毎週日曜日、祝日

■事業紹介

院長は、三春町の医療法人誠励会のリハビリ施設で約10年間、特に高齢者へ日常生活の改善や介護予防に取り組んできた先生で、リハビリ分野のプロフェッショナルです。東洋医学は、自己免疫力を高めて身体の不調を改善させていくために、その効果が現れるまでに時間がかかります。患者様には、特に会話の時間を増やし、東洋医学と西洋医学の違いを含め理解を深めていただくことに力を入れております。又、治療やリハビリの後の修復過程で発現する痛みの増加など一時的に悪化したかのような反応（好転反応）の理解を深める努力も日々行っております。院長がストレスの因子から現代人の免疫力が低下していると日々感じていたとき、ストレスをすっきり解消させ、免疫力をも高めてくれるホーリーバジルの存在



を知り、当院の由来となりました。この万能ハーブは栽培簡単なので、種を無料で配っており、栽培方

法から活用法まで指導しています。このエキス入りオイルを手作りし、治療・リハビリに活用していますので、患者様の症状改善にもつながっております。

■商工会を活用した施設レベルアップ

院長が治療・リハビリのレベルを高めようと調査しているときに、理学療法士が使用している筋肉の質改善を実現する医療機器の情報が入り、超高齢化社会を迎えるこれからの治療・リハビリに必要なものだと思われました。



機器の導入に当たっては商工会の支援により小規模事業者持続化補助金を活用させて頂きました。お陰さまで患者様の症状改善にもつながり、好評を得ております。今後も新機器とホーリーバジルの活用により、地域密着型の整骨院になれるように、一人一人の患者様に合った治療・リハビリを提案・提供し悩める患者様に寄り添っていきたくと考えています。

県中・県南

小野町商工会

肉のうまい洋食店→レストラン志木



レストラン志木
代表 木内 清子氏

〒963-3402
福島県田村郡小野町大字谷津字谷津79-5
TEL 0247-72-2921
FAX 0247-72-3843
営業時間/ランチ 11:30~14:00
ディナー 17:00~21:00
定休日/不定休

■“肉”をキーワードに心機一転



小野町にて32年間地元の人たちに親しまれている地域密着型の洋食店です。老舗洋食店での修行経験を活かし「素材(肉)、ソース、調理にこだわった“美味しい洋食”を食べてもらいたい」との思いで提供する「オリジナルハンバーグ」は多くの人に喜ばれる大人気メニュー。現在、夫婦2人で元気にお店を切り盛りしています。しかし長年地元のお客さんの要望に応えるあまりメニューを増やし続けた結果、本来の洋食店の要素は薄れ定食屋さん化していました。そこで昨年、旦那さんから奥さんへの代表者変更をきっかけに事業の見直しを決意。お店の特徴(売り)を明確にする為に専門家からのアドバイスなどを活用し「肉のうまい洋食店」というキーワードに辿り着き



ました。さらにお客さんに「肉のうまい洋食店」を効果的にPRする為に補助金を活用し「メニュー・店舗・看板」をリニューアルし日々奮闘中です!ぜひ一度、レストラン志木「自慢の肉料理」を満喫しに来て下さい。

■商工会の幅広い支援に感謝

開店から約30年、ハンバーグのネット通販や新メニュー開発などいろいろと試行錯誤してきましたが、最近手詰まり感があり売上も減少傾向でした。そんな時、商工会から勧められた「事業の見直し」を決めました。経営計画づくりから専門家のアドバイス、補助金の申請と実施、資金調達まで幅広い支援を受け「具体的なかたち」になったことで「これからも頑張ろう」という意欲が湧きました。安心して頼れる「商工会」が身近にいる事が、本当に心強いです。

Information

商工会だより

小さな村ならではの頑張り 元気づくり『策はある』

鮫川村商工会



近年、村外の多くの皆様より「鮫川村は頑張っていますね…」と声をかけられる機会が度々ある。その度に

「結構スツタモンタもあんだがんだい」と笑いながら答えている。我が鮫川村は石川町、棚倉町、古殿町、埴町、いわき市に隣接する阿武隈南部の人口三、三五〇人の中山間の小さな村。どの町から来ても急な坂道を通過しなければならぬ。よく皆様、が口にする「過疎化が進む辺鄙な村」なのである。人口減少が急激に進み商店の数や商工会会員数も半減しているだけに、村の将来に危機意識も強く、若者や村民のアイデアを駆使してでも「頑張るべく要因」はそこにある。

うまいもの祭り さめがわマルシェ

高原の鮫川うまいもの祭りは三十一回を迎える。鹿角平観光牧場の雄大な景色を「最大のおもてなし」として、村内外から毎年五千人以上のお客様を迎えてバーベキューを楽



恒例となった高原の鮫川うまいもの祭り

しむ。イベントの事務局は商工会が担い村役場とJAの企画委員が内容を企画する。私は常に「イベントの目的は人づくり」と実行委員に話をする。五年前から鮫川中学校の全生徒にイベントのスタッフをお願いしている。この生徒達が村の一大事業の体験を通じて「故郷を愛する心」を育ててもらいたいと願う。

また近年、商工会青年部を中心として村内の若者の発案により「さめがわマルシェ」が開催され、多くの集客に村民が驚いている。今後とも村をあげて「女性や若者の発案」を応援し、村の産業振興に繋げたいものだ。

高齢者の買い物支援と商店の 売り上げアップを目指す



村民の需要が高まる村民の店「すまいる」

「村民の笑顔」「商店の笑顔」「スタッフの笑顔」が見たい…。国の買い物弱者支援事業と村の支援、住民の協賛を得て開店した「村民の店すまいる」が五年目を迎える。この店舗は元商工会会長が経営をしていたスーパーを村が買い取り、商工会が経営する公設民営の「村民の店」だ。十七商店の商品を扱い、店舗販売の他、高齢者への宅配を通じて安否確認の一翼を担っている。またこの店舗の空きスペースを利用して、地域ボランティアの皆様による定期的な「高齢者すまいるサロン」を開催し、住民の「コミュニティの場」としても広く活用されている。

村の人口減少をどう食い止める 調査研究報告書を村に提出！

「急激な人口減少や若者の村外への流出」は村の破綻に繋がる。また村内事業所、商店への直接的な経済的損失は避けられない。それらの現状を鑑み、今年度の重点事業として「若者の定住策への調査研究」を実施した。全商工会会員及び公営住宅入居者へのアンケート調査を実施し、調査委員会を経て先進地（茨城県大子町）視察を実施した。公営住宅入居者からは「公営住宅の家賃の助成を望む」声の反面、「新築は村内で村内の業者に依頼してもいい」という意見も多数寄せられた。また子育て支援日本一とされる大子町の施策は住宅建設やリフォームへの支援の条件は「地元建設業者」としている。

自治体や商工会の成すべき役割は「地元の産業の振興と担い手育成」にある。他を見て学び、身丈にあつた「循環型の地域づくり・人づくり」が急務とされる。



先進地視察（茨城県大子町）

Information

商工会だより



大内の夜

「しもごろろーカード」を利用 した地域活性化に向けて

下郷町商工会



下郷町商工会会長
の渡部勝男です。

下郷町は会津地方の南部に位置し周囲は那須山系などの

山々に囲まれ、町のほぼ中央を南西から北東に阿賀川（大川）が流れ、「搭のへつり」に代表される雄大な渓谷が形成されています。そして渓谷に包まれた湯量豊富な湯野上温泉があり、「いで湯と渓谷の里下郷町」と呼ばれています。また、江戸時代にタイムスリップしてしまっただかのような茅葺屋根の町並みの大内宿には、年間八十万人が訪れており、歴史と自然に恵まれた町でもあります。交通は、国道一二一・一七号線、そして国道二八九号甲子道路や「会津鉄道」が

走り、首都圏へのアクセスも便利になっています。地域の主な産業は、農業や観光産業などです。

新たなポイントカードの導入

今年度の重点事項の一つとして、当商工会では「下郷町と連携した共通IC型ポイントカードシステムの導入と運営」に取り組みしました。それはポイントカード事業によつて消費を流出させずに町内を循環させ、行政にも各種施策の普及のためポイントを発行してもらい、イベントなどの参加でもポイントがもらえる、まったく新しいポイントカード「しもごろろーカード」を誕生させました。下郷町は観光に関わる事業所が多いので、何度もと下郷町に来てもらい、ピーターを作りたいとの思いもあり、従来からの小売店のみならず飲食店や宿泊・観光施設等でも使える、町民だけでなく観光客等町外の人たちも利用することができる魅力あるポイントカードです。このカードは、昨年十月五日に運用を開始し、町内の小売店や飲食店、ガソリンスタンド燃料店、コンビニ・スーパー、観光おみやげ旅館民宿などの加盟店七十一事業所で、原則として百円（税別）の買い物ごとに「ポイント」がも

らえ、貯まったポイントは「ポイント一円で」ポイントから使えます。また、町内の銀行、郵便局、J/A、駅などの公的施設に協力してもらい、そこに来店しただけで「ポイント」がもらえる、来店ポイント加盟店が十六箇所あります。この来店ポイントの取り組みは全国的にも珍しく、注目をされています。このほか、ウォーキングなどのイベントへの参加や、町の健康診断の受診や商工会



新ポイントカードセレモニー



主催の健康教室などに参加してもポイントがもらえ、更に希望者には一人暮らし高齢者の安否確認も受けることができます。こうした取り組みにより、商店街の活性化はもとより、町民の健康づくりとコミュニティ形成づくりの一助として「しもごろろーカード」を活用しています。これまでにカード登録者は、約四千人となり町民のほとんどの方に発行されており、今後、下郷町を訪れる観光客の方々にもPRして、会員増加を目指していきたいと思えます。現在、町内十二箇所の飲食店加盟店で、ポイントラリーを行っており、全箇所制覇すると五百ポイントのボーナスポイントがもらえる企画を実施中であり、町民はもとより町外からの来客者にも大変好評を得ております。ぜひこの機会に下郷町にお越しいただき「しもごろろーカード」ポイントをゲットしてください。

あなたも家族もまるごと守る! 頼れる補償の 商工会の福祉共済

全国商工会会員福祉共済

12万人以上の
皆様にご利用
いただいています

「けが」の
補償



「病気」の
補償



「生命」の
保障



トータル
「がん」補償
シンプル
「がん」補償



お問合せ・資料請求はご加入の商工会まで



福島県知財総合支援窓口

県内唯一の知的財産に関するワンストップ無料相談窓口

経営課題の解決は知財で

TEL 024-963-0242

郡山市待池台1-12 福島県ハイテクプラザ2F

知的財産の活用についてお気軽にご相談ください!

窓口支援のポイント

- 1 支援担当者が悩みや課題を解決支援
- 2 必要に応じて専門家を活用
- 3 企業等での訪問相談も可能

(独)工業所有権情報・研修館事業 実施:一般社団法人福島県発明協会 <http://www.fukushima-i.org>